

久米寺・子島寺所蔵瓦類の調査

飛鳥資料館

飛鳥資料館では、飛鳥・藤原宮跡発掘調査部の協力を得て、櫛原市久米町所在の久米寺と高市郡高取町所在の子島寺が所蔵する瓦類の調査を実施した。

久米寺所蔵の瓦は、多宝塔の北側で出土したもので、調査したのは、軒丸瓦3点、軒平瓦4点の計7点である。軒丸瓦は、いずれも磨滅が著しく、外区外縁の文様等は不明である。復原瓦当径約21cm、蓮子の数は1+5+9、複弁6弁蓮華文で6271A型式である。軒平瓦のうち、均整唐草文の2点は、時期の降るものであるが、他の2点は偏行唐草文軒平瓦で、同范のものが興福寺出土例にみられる。

つぎに、子島寺所蔵の瓦類は、軒丸瓦2点、軒平瓦6点、丸・平瓦等17点、埠仏1点の計26点である。現在、子島寺の東から北西にかけて独立丘があるが、本堂等は、これの南西の一画を削平して建立している。埠仏が子島寺に南接する龍王神社の北西から発見されたほかは、子島寺の北、丘陵の南斜面の出土と伝える。丸・平瓦類には、行基葺に用いられた全長36.4cmの丸瓦1点と斜格子印文の平瓦片1点を含む。軒瓦には、室町時代に降るものまであるが、そのなかで、大宮大寺所用軒瓦の存在が注意される。それは軒丸瓦6231C型式、軒平瓦6661B型式の各1点である。出土地点に誤りがなければ、付近に窯跡が存在した可能性も考えられる。このほか、軒丸瓦6308、6641系の偏行唐草文軒平瓦、先述した興福寺、久米寺出土例と同范の偏行唐草文軒平瓦がある。埠仏は、縦6.9cm、横5.3cm、南法華寺(壇坂寺)、大分・虚空藏寺のものと同范で、台座下と後屏の両端に獅子を配した小形独尊倚像である。 (小林謙一)

久米寺蔵軒瓦

子島寺蔵軒瓦・埠仏

(縮尺・瓦約1/5・埠仏約1/2)